
学園ライフをenjoy！

レンナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学園ライフをenjoy!

【Nコード】

N6572M

【作者名】

レンナ

【あらすじ】

朝のチャイムが鳴り響く時間。

大きな、お屋敷のような学園でたくさんの生徒は登校をしていました

登校時間

キンコーンカーンコーン…

朝の始まりを告げるチャイムが鳴る。

生徒達は一気に校舎へと入っていく。

中にはウサ耳の少女4人組や、七人の少女達で登校している者も居た。

そんな中には小さな少女と幼い少年の姿もある。

七人の少女達は幼い少年を見つけると、その子めがけて飛びかかる。

『さくたろー！ー！ー！』

そう叫んだ瞬間に、さくたろー、と呼ばれた少年は七人の少女達に抱きしめられる。

それをさくたろーは困ったように笑うと、一緒に歩いていた少女真里亞がそれに気づきさくたろーの手をとって七人の少女達から離れる。

そしてそのまま校舎の中へとうまく入っていった。

少女 真里亞は校舎に入り、階段をのぼりながらさくたろーに尋ねる。

「うー、さくたろ、大丈夫？いつも災難だらけだね…。うー…。」

真里亞がさくたろうに優しく尋ねると、さくたろうは返す。

「うりゅ、いつも通りだから大丈夫！ね？だからボクのこととは心配しないで大丈夫だよ、真里亞！」

笑顔でさくたろうは真里亞に返した後、手を握り1 - A組の教室へ入っていった。

そんな微笑ましい光景を、四人のウサギ達は見ていた。

「にえゝ、あちき達もあんな感じに仲が良いにえ」

「そ、そうですか…？」

「ええ、そうよ、きつと。410ちゃんも45ちゃんも誰もかもみーんな仲良しよう！」

「……私だけハブられてないか…？」

ウサギの群れの中の一匹は泣きそうになる。

眼帯をつけたウサギは仲間はずれになりかけている。

それに気づいたのか黒髪ショートウサギが眼帯ウサギに近づく。

「00ちゃん、ほらほら、元気出して？ 私は貴女のことをハブリもしないわ。」

笑顔で手を差し伸べるウサギ。
眼帯ウサギは今にも涙があふれ出しそうな瞳をしてからその手をとった。

「ありがとう、556…。」

嬉しそうな声で眼帯ウサギはそういった。
そして、手をとったのを確認すると、黒髪ウサギは眼帯ウサギの手を引いて悪笑うサギとツインテウサギの後を追っていく。
その一部を、魔女二人は見ていた。

「ねえねえ、ベルンー、あんな感じの奴らって他に居るかしら？」
「さあね、知らないわ…。」

ハロウィンパンプキンやらリボンやらついたピンクのドレスを着た少女は問う。
紺色のドレスを着た青髪の少女、ベルカステルに。

「むー、何よそれ！なんで生返事なのー！？」

ピンクのドレスを着た金髪少女、ラムダデルタは駄々をこねる。
幼さがまだ見える、少しだけ無垢な少女だ。
ラムダデルタ（以下ラムダ）はつまらなさそうに口をへの字に曲げる。

それをベルンカステル（以下ベルン）は見ると、サクサクキリキリ、ラムダを置いて教室、³ Bへ向かう。

「ちよっ、まっ、ベルンー、置いてかないでー！」

無表情のまま階段を上っていくベルンをラムダは追いかけた。

1 B

一方外は雨が土砂降りになっていた。

その土砂降りの中を、窓ガラスをよじ登っている少女が居た。
普通の正面口から入らずに。

「1…、1 B…！とりあえずそこまで登らなくては！」

ベルンカステルと同じ髪色のツインテールの少女はガムテを手と足につけ、器用に壁を上っていた。

雨の中。

ス
ク
水
で
。

「はあ…はあ、もうちょっとです！あとこれだけで…！やった！」

1 Bの窓に張り付いて、鍵をピッキングして開けると、中へ入る。
幸い、人が居なかったので、パパッとエリカは着替えた。

「やりました！やりましたよ我が主！見てないでしょうけど！」

一人教室で騒ぐ可哀想な生徒。
なんてこつたい。

そしてその当の生徒は他の生徒　アスモデウスとベルゼブブ、
マモンが入ってくると即座に席に座る。

エリカは三人に挨拶した。

あくまで学園なので礼儀正しく。

「おはようございます、アスモデウスさん、ベルゼブブさん、マモンさん。」

「ええ、おはよう。」

「おっはよー!」

「おはよう、エリカー!」

三人も同じく挨拶を返す。

そこにまた生徒がやってきた。

「…エリカ、おはようございます。」

無表情の少女、ドラノール・A・ノックスがやってきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6572m/>

学園ライフをenjoy！

2010年10月10日17時27分発行